

## 佐賀大学 海外派遣留学報告書

1	学籍番号	17101258		
2	氏名	松本 音希子		
3	佐賀大学での所属(派遣時)	教育学部	学校教育課程	4年
4	留学先	大学: ラトローブ		学部・学科等: 教育、コミュニケーション、ジャーナリズム
		国名	オーストラリア	都市名
5	留学期間	2020 年 2 月 ~ 2020 年 10 月		
6	留学先大学	①【留学前】留学先大学を選んだ理由 世界中の様々なバックグラウンドを持った学生が集まっており、オーストラリアだけではなく、それ以外の国の文化も学ぶことができるから。佐賀大学で教育実習を終え日本の教育について実践的な知識を得た上で、日本における実際の教育とオーストラリアでの教育の違いについて学びたいと思ったから。		
		②【留学後】留学先大学の魅力 語学力の制限で1年生の授業しか履修できないということもあり、教育学部以外のコミュニケーションやジャーナリズムに関する授業も履修した。一番の魅力は先生方だった。私が履修した授業の先生方のほとんどが教育の授業だと特別支援学校で校長先生を務めていた先生や、ジャーナリズムの授業だと実際にニュースライティングを行う現場で働いている先生など、実際の現場を経験した・している人が先生をされていたため、授業内容が濃く、説得力があるものばかりで、1時間1時間の授業が貴重な体験だった。		
7	語学について	①【留学前】TOEFL等の公的試験の最終得点		
		試験名称 IELTS	スコア 6.0 (Overall)	
		②【留学前】語学能力向上のために準備したこと 図書館にあるIELTSの参考書はほとんど解いてしまうほど毎日勉強した。具体的に、ライティングは参考書の問題を解いた後、オーストラリアの友達に添削してもらった。リスニングは問題形式に慣れるために同じ問題でも何度も聞いたり、海外映画を英語音声・英語字幕で聞いて、いろんな国のなまりに慣れるようにした。リーディングは、速読できるように英語で書かれた本をバスでの移動時間に読んでいた。最後にスピーキングは、留学生の友達と英語で話す機会を自分で作ったり、自転車に乗っている時に思いついた日本語を翻訳することをしたり、歩いている時に独り言のように情景描写を英語で行ったりしていた。		
		③【留学中】現地生活を開始した当初の日常生活における語学能力 <input type="checkbox"/> ア)ほとんど困らなかった <input type="checkbox"/> イ)少し困った <input type="checkbox"/> ウ)かなり困った <input type="checkbox"/> エ)何もわからなかった		
		④【留学中】日常生活で困らなくなるまでかかった月数 2ヶ月ぐらい		
		⑤【留学中】留学先大学の授業や研究における内容の理解度 <input type="checkbox"/> ア)ほとんど困らなかった <input type="checkbox"/> イ)少し困った <input type="checkbox"/> ウ)かなり困った <input type="checkbox"/> エ)何もわからなかった		
		⑥【留学中】授業や研究で困らなくなるまでかかった月数 3ヶ月ぐらい		
		⑦【留学中】授業や研究室における発言 <input type="checkbox"/> ア)ほとんど困らなかった <input type="checkbox"/> イ)少し困った <input type="checkbox"/> ウ)かなり困った <input type="checkbox"/> エ)何もわからなかった		
⑧【留学中】授業や研究室における発言で困らなくなるまでかかった月数 3ヶ月ぐらい				

		<p>⑨【留学中】授業・研究の準備の際の文献読解  <input type="checkbox"/>ア)ほとんど困らなかった <input type="checkbox"/>イ)少し困った <input type="checkbox"/>ウ)かなり困った <input type="checkbox"/>エ)何もわからなかった</p> <p>⑩【留学中】授業・研究の準備の際の文献読解で困らなくなるまでかかった月数  0ヶ月ぐらい</p> <p>⑪【留学中】授業・研究におけるレポート等の執筆  <input type="checkbox"/>ア)ほとんど困らなかった <input type="checkbox"/>イ)少し困った <input type="checkbox"/>ウ)かなり困った <input type="checkbox"/>エ)何もわからなかった</p> <p>⑫【留学中】授業・研究におけるレポート等の執筆で困らなくなるまでかかった月数  0ヶ月ぐらい</p> <p>⑬【留学中】語学能力向上のために努力したこと  毎日英語で日記を書く。300～400ページくらいある英語で書かれた本を毎朝読み、留学期間で8冊ほど読むことができた。予習で課された論文やテキストは必ず目を通し、要点をまとめる。授業中のディスカッションや発表の際は必ず意見を言う。コロナウイルスの影響で友達とあまり会えなかったため、カフェや大学のセキュリティーの職員と会った時は必ず話して英語を話す機会を作る。</p>
8	履修登録・単位認定	<p>①出発前に留学先での履修登録はできたか  <input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p> <p>②留学先に到着後、履修科目の変更・追加はできたか  <input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ</p> <p>③一学期あたりの履修科目・単位数  4科目・60単位</p> <p>④一学期に履修した科目数・単位数の量  <input type="checkbox"/>多すぎた <input type="checkbox"/>ちょうどよい <input type="checkbox"/>少なかった</p> <p>⑤履修登録に関するアドバイジング  <input type="checkbox"/>あった <input type="checkbox"/>なかった</p> <p>⑥留学先で取得単位を佐賀大学で単位互換できたか  <input type="checkbox"/>はい ( 科目 単位) <input type="checkbox"/>いいえ <u>まだ行っていない。</u></p>
9	授業内容	<p>①履修した科目の具体的な概要・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育: オーストラリアにおける特別支援教育について。障害の種類とそれに対応する教育方法。インクルーシブエデュケーションについて。</li> <li>・マーケティング: マーケティングの基本について。マーケティングを行う際に注意すべき観点について。</li> <li>・ストラテジックコミュニケーション: 商品の特徴からクリエイティブな商品名を考える。MBE(Message, Because, Example)を考える。SWOT分析を行い、それに基づく企業やサービスの将来について考える。</li> <li>・ESL(English as a second language): 第二言語としての英語。大学におけるレポートの書き方、レファレンスの書き方、レポートの構造についての学習、文化の違いについての学習。</li> <li>・ジャーナリズム: ニュースライティングの構造・書き方、どのような出来事がニュース記事になるものとして価値があるか、フィーチャーライティングの構造・書き方、リードの書き方について。</li> <li>・プロフェッショナルライティング: 英語でのライティングの基本についての学習、様々な分野(モノログ・スポーツライティング・レビューライティング・ウェブライティング・ツイストライティング)での文章の書き方について。</li> <li>・インタビュー: インタビューの種類(街頭インタビュー・政治に関するインタビューなど)とそのやり方。質問の種類(オープンエンディッドクエスチョン・クローズエンディッドクエスチョン)についての学習。インタビューをする際に注意すべき点。取材対象者の研究がなぜ重要なのかについて。</li> <li>・ダイバーサーニングコミュニティー: 教師を目指す人たちが、実際に教育現場で働く前に知っておかなければならないことについての学習。主にソーシャルジャスティスやアイデンティティについての学習。SDGsについての学習。</li> </ul>

		<p>②留学先の学年暦(学期・休暇)、授業スタイル、授業への準備、試験等の準備</p> <p>1) 学年暦 2学期制。1学期12週間構成。6週間目が終了した後、一週間のセメスターブレイクを挟み、残り6週間の授業実施。学期間の休業(冬休み)は4週間。</p> <p>2) 授業スタイル:1学期3週目まで対面、それ以降はオンライン。</p> <p>3) 予習復習方法 授業前にオンライン上に投稿されているレクチャーの動画を見て予習、さらにリーディングとして課されている論文と教科書を予習として読む。授業で不明だったところを教科書を見ながら復習。それでもわからなかったところは先生にメールまたはZOOMで質問して解決する。</p> <p>4) 試験・レポートの準備 試験は教科書や授業中にまとめたノートを見て要点の確認を行った。レポートは、大学の図書館のサイトで論文や本を探し、それをレファレンスとして使用し論文を書いた。</p>
10	課外活動	<p>①課外活動に参加した頻度</p> <p><input type="checkbox"/>ア)週に2回以上 <input checked="" type="checkbox"/>イ)週に1回程度 <input type="checkbox"/>ウ)月に1回～数回程度 <input type="checkbox"/>エ)1学期に1回～数回程度 <input type="checkbox"/>オ)参加しなかった</p> <p>②参加した課外活動はどのようなものか 日本語クラブ「HAKAMA NAKAMA」本来では週1回で活動が行われているが、コロナウイルスの影響で1学期の第3週で活動が中止になった。</p> <p>③参加した理由 以前SUSAPの機会を利用してラトローブ大学に留学した際、バディプログラムのメンバーのほとんどが「HAKAMA NAKAMA」に所属しており、今回も自動的に参加するようになった。</p>
11	学内外の施設・環境等	<p>①留学先の国際ナショナルオフィスの支援体制</p> <p><input type="checkbox"/>ア)充実している <input checked="" type="checkbox"/>イ)ふつう <input type="checkbox"/>ウ)充実していない(理由: )</p> <p>②図書館</p> <p><input type="checkbox"/>ア)充実している <input type="checkbox"/>イ)ふつう <input type="checkbox"/>ウ)充実していない</p> <p>③学内通信環境</p> <p><input type="checkbox"/>ア)充実している <input checked="" type="checkbox"/>イ)ふつう <input type="checkbox"/>ウ)充実していない</p> <p>④運動施設</p> <p><input type="checkbox"/>ア)充実している <input type="checkbox"/>イ)ふつう <input type="checkbox"/>ウ)充実していない</p> <p>⑤飲食施設(学食・売店等)</p> <p><input type="checkbox"/>ア)充実している <input type="checkbox"/>イ)ふつう <input type="checkbox"/>ウ)充実していない</p> <p>⑥クリニック</p> <p><input type="checkbox"/>ア)充実している <input type="checkbox"/>イ)ふつう <input type="checkbox"/>ウ)充実していない</p> <p>⑦キャンパスの安全性</p> <p><input type="checkbox"/>ア)安全 <input checked="" type="checkbox"/>イ)注意すれば安全 <input type="checkbox"/>ウ)あまり安全ではない</p> <p>⑧安全について特に気を付けていたこと(キャンパス内) 自分の持ち物は常に携帯しておくこと、椅子や机の上に置いたままその場を離れない。</p> <p>⑨渡航先の治安状況</p> <p><input type="checkbox"/>ア)日本より良い <input checked="" type="checkbox"/>イ)日本と変わらない <input type="checkbox"/>ウ)日本より悪い <input type="checkbox"/>ウ)日本よりかなり悪い</p> <p>⑩特に近付かない方がいいと感じた地区や場所 シティでも特別治安の悪さは感じなかった。念のため夜間の外出は避けたほうが良い。</p> <p>⑪通学に関しての交通事情や留意点 私は寮に住んでいたため、通学に関して問題は何もなかったが、公共交通機関を利用する場合、電車やトラムは遅れがほとんど無いが、バスは遅延することが多いため、予定よりも1本早めのバスに乗ることを推奨する。</p>

12	生活	<p>①留学中の住居形態</p> <p><input type="checkbox"/>ア)寮 <input type="checkbox"/>イ)民間アパート <input type="checkbox"/>ウ)その他( )</p> <p>②住居はどのように探したか</p> <p>大学のサイトから探した。</p> <p>③留学先での生活費(月額)</p> <p>合計 約 15万 円/月</p> <p>詳細:ア)宿舎費: 8万 円  イ)食費: 5万 円  ウ)通信費: 3000 円  エ)交通費: 2500 円  オ)その他 _____ 円</p> <p>④お金はどのようにしてもっていったか</p> <p>クレジットカードと現金5万円を持って行き、現金は財布とリュックに分散して持っていった。両替は1万円分だけ日本で行って持っていったが、メルボルンはマーケット以外ほとんどの店でカードが使えるため、日本で両替する必要はないと感じた。両替をする場合、シティのQVで行うのが一番レートが良い。</p> <p>⑤留学先における物価(日本・佐賀と比較して)</p> <p><input type="checkbox"/>ア)高い <input type="checkbox"/>イ)同じくらい <input type="checkbox"/>ウ)安い</p> <p>⑥留学中奨学金を受給したか</p> <p><input type="checkbox"/>ア)はい <input type="checkbox"/>イ)いいえ</p> <p>⑦受給した場合は、その奨学金名と金額</p> <p>ア)奨学金名 校友会奨学金  イ)金額 30万円</p>
13	進路・就職	<p>①留学前に志望していた学部卒業後の進路または大学院終了後の進路</p> <p>アナウンサー</p> <p>②留学後、現在志望している進路</p> <p>アナウンサー</p> <p>③今回の交換留学を通じて得たもので、将来のキャリアに活かせると思うもの</p> <p>留学前は主に教育について勉強しようと思っていたが、1年生の授業のみ履修可能ということもあり、この機会を利用して様々な分野の勉強に取り組んだ。特に、ジャーナリズムの授業は先生方が、現役でニュースライターやラジオのパーソナリティーをされているということもあり、授業内容が濃く、毎時間の授業が新しい発見で面白かった。レポートで使うライティングとニュースライティングは形式や使う単語がかなり異なるため、課題にかなり苦戦したが、日本の新聞やニュースの見方にも適応できるものでとても役に立ったし、将来にも多めに生かせると感じた。</p> <p>④進路選択、就職活動を行う上で、不安や気になること</p> <p>コロナウイルスの影響で想像していた留學生活とは異なり、できることが限られてしまった。本来はカフェでアルバイトをする予定だったが、働くことはできなかった。オーストラリアでのカフェの雰囲気を楽しむ中で、海外で働くのもいいなと魅力を感じた。浪人、留学で留年することになり、社会に出るのが同じ年代の学生よりも遅くなってしまったため、在学中にワーキングホリデーをすることはできないが、社会に出て、海外で働くことも視野に入れたかった。</p>

14	留学後の感想	<p>①留学したことによる成果と課題</p> <p>コロナ禍での留学は想像していたような満足できる状況での留学では無かったが、できることが限られていたからこそ、機会を無駄にすることがないようにできる最大限のことをしようと努力できたと思う。例えば、授業中のディスカッションでは必ず発言する、クラス全体の場で発言する機会があれば必ず発表したり、予習の際に課されている論文やテキストのリーディングはうやむやにせず、必ず目を通し、要点をまとめたり、寮で誰かが料理をしている時に合わせて料理をすることで、英語で話す機会を自分で作ったり、カフェに行ったら店員さんと必ず話すようにしたりと、最低限の努力は怠らないように心がけていた。8ヶ月の留学で英語が出てくるのにまだ時間がかかるため、正直スピーキング力が上がったとは言いがたいが、帰国前に現地の日本語クラブの友達と話した時に、スピーキングがよくなったと言ってもらえたので少しは伸びたと思う。リーディングに関しては毎日大量の論文を読んだり、本を買って読書をしてきたため、読むスピードは留学前よりも早くなった実感がある。リスニングに関しては、理解しようとかかなり集中しないと聞き取れなかったが、その抵抗が少しなくなったように感じた。ライティングは、各学期に履修していた4つの授業全てで1500語のレポートが各3回程度課されるため、長い文章を英語で書くことに対して抵抗はなくなり、文法ミスなども徐々に減っていったように感じる。</p> <p>海外に留学したら英語力をもっと伸びると正直思っていたが、伸びるかどうかということは個人の努力次第だということはこの留学を通して実感した、留学したばかりの頃は、自分の英語が通じないことが怖くて授業中に発言することはほとんどできなかつたし、授業の先生の説明もほとんど聞き取れず、悔しい思いや情けなく思うことが多かった。しかし、1回勇気を出して発言することで、話せたという達成感と通じなくても伝えたいという強い気持ちがあれば相手は一生懸命聞いてくれるということがわかったため、少しずつ自分の英語に自信を持てるようになり、授業に臨む心持ちも変わった。</p> <p>流暢に話せると言えるまでにはまだまだ不十分なため、ここで英語の勉強をやめるのではなく、これからも引き続き勉強は続けて行きたいと思う。</p> <p>②これから留学を希望する学生に伝えたいこと</p> <p>留学を通して成長したいと思い、その成果が得られるかどうかは本当に自分の努力次第だと思う。環境に身を任せるだけでは何も変わらないし、英語力を伸ばしたいと思っているのであれば、自分から外に出る、殻を破る勇気を出さなければ何も成長しないと実感した。ラトローブ大学では、学生の出身地が多国籍なこともあり、日本の大学では日本の環境についてののみ考えたり学習することが多いが、こちらの大学ではグローバルに目を向けて考える、学ぶことが多いため、自分の視野が広がると思う。学部選びに関しても、私は教育についてのみ学習しようと留学前は考えていたが、佐賀大学には無い学部を主に履修したため、考える範囲が広がって、ものの見方が変わるきっかけも作ることができた。様々な分野を広く学習することを推奨する。</p> <p>③国際交流推進センターのサポートに対する提案・意見など</p> <p>留学前から、私の資料提出に関する不備や語学カスコア不足に関してたくさんご迷惑をかけたが、どんな時でも迅速に対応していただき、無事留学することができたと思う。留学してからも、コロナ禍で不安な状況の中、国際課の方にはこまめな連絡や情報提供をしていただき、留学先でも安心して生活することができた。</p>
----	--------	--